

# 日商簿記 1 級&全経上級ダウンロード講座 連結会計5

## 子会社株式の追加取得と一部売却

収録日：平成 27 年 10 月 19 日

### 【出題実績】

日商出題傾向：131 回（商業簿記）

	サク	スッキリ	教科書
ページ数	16	13	11
追加取得	◎	◎	◎
一部売却	◎	◎	◎

◎説明あり、例題あり ○説明あり、例題弱い、△説明弱い、例題あり、×説明弱い、例題弱い  
（「弱い」は「ない」を含みます）

H 2 6 年度の連結基準変更の目玉論点になるかもしれません。  
内容は簡単なので、確実に押さえてください。

CMCが弥生の株式の10%を持合株式として買いました。

これは「その他有価証券」ですね

20%を追加で取得しました（合計30%）

関連会社にしたわけですから「関係会社株式」持分法スタートです

さらに40%を追加取得しました（合計70%）

はい、ここで支配獲得です「子会社株式」連結スタートです

さらに10%を追加取得しました（支配力を強める）

少数株主から10%を買い取った訳ですね。

「時価評価しますか？」

パーチェス法は、支配獲得時に全面時価評価している  
追加取得時はしない

「のれんは計上しますか？」

旧基準では最新の時価で計上しなおしていました。

新基準では、資本取引（単なる資本の移動）と考えます。

でも、翌年20%を売却しました（支配力を弱める）

少数株主に売却する訳ですね

個別で計上している売却益（損益取引）を資本取引に振替えるイメージです。

では追加取得からいきましょう

グループ全体を一つの企業と考えると

自己株式の取得・処分のイメージに近いと考えてください

したがって、差額は損益ではなくその他資本剰余金で処理をします

## 支配獲得後に追加取得した場合の連結修正仕訳

土佐海援隊商事(株)は×2年3月31日に亀山社中(株)の発行済株式(S社株式)の70%を5,000円で取得し、子会社化した。そして当期末(×3年3月31日)に10%を850円で追加取得した。次の資料に基づき、子会社株式の追加取得に関する連結修正仕訳を作成しなさい。

### 【資料】

- 亀山社中(株)の貸借対照表

貸借対照表				貸借対照表			
亀山社中(株) ×2年3月31日(単位:円)				亀山社中(株) ×3年3月31日(単位:円)			
諸資産	10,000	諸負債	4,000	諸資産	12,000	諸負債	5,700
		資本金	3,500			資本金	3,500
		利益剰余金	2,500			利益剰余金	2,800
	<u>10,000</u>		<u>10,000</u>		<u>12,000</u>		<u>12,000</u>

(注) ×2年3月31日における亀山社中(株)の諸資産の時価は11,000円であった。

(注) ×3年3月31日における亀山社中(株)の諸資産の時価は12,500円であった。

- のれんは発生年度の翌年から10年間で均等償却を行う。
- 評価差額には税効果会計(実効税率40%)を適用する。
- 亀山社中(株)の当期純利益は300円であった。当期は配当を行っていない。

資本金	3,500		3,500
利剰余	2,500	→	2,800
評価差	600		600
	6,600	×0.3 非株	1,980
	×0.7	4,620	690
S株	5,000		850
のれん	380	→	342
		△	38

### 解答

非支配株主持分当期変動額 690 / S株 850  
 その他資本剰余金 160

#### <考え方のヒント>

追加取得時の持分の増加額

- ① 追加取得時のS社純資産の10%
- ② 追加取得時の非支配株主持分の1/3

どちらでも考えられるようにすると応用力が高まります

# 子会社株式を売却した場合の連結集計仕訳

土佐海援隊商事(株)は×2年3月31日に亀山社中(株)の発行済株式(S社株式)の80%を9,680円で取得し、子会社化した。そして当期末(×3年3月31日)に、そのうちの25%(亀山社中(株)の発行済株式総数の20%に相当する)を2,430円で売却した。次の資料に基づき、子会社株式の売却に関する連結修正仕訳を作成しなさい。

## 【資料】

- 亀山社中(株)の貸借対照表

貸借対照表 亀山社中(株) ×2年3月31日(単位:円)				貸借対照表 亀山社中(株) ×3年3月31日(単位:円)			
諸資産	18,500	諸負債	9,500	諸資産	21,000	諸負債	11,600
		資本金	5,000			資本金	5,000
		利益剰余金	4,000			利益剰余金	4,400
	<u>18,500</u>		<u>18,500</u>		<u>21,000</u>		<u>21,000</u>

(注) ×2年3月31日における亀山社中(株)の諸資産の時価は19,500円であった。

(注) ×3年3月期における亀山社中(株)の当期純利益は400円であった。当期は配当を行っていない。

- のれんは発生年度の翌年から10年間で均等償却を行う。
- 評価差額には税効果会計(実効税率40%)を適用する。

資本金	5,000		5,000
利剰余	4,000		4,400
評価差	600		600
	9,600	×0.2 少株	1,920
×0.8	7,680		△2,000
S株	9,680		△2,420
のれん	2,000	→	1,800
			△200

個別の仕訳  
C 2,430 / S株 2,420  
益 10

連結上の仕訳  
C 2,430 / 非株変 2,000  
資 J 430

## 連結修正仕訳

S株 2,420 / 非支配株主持分当期変動額 2,000  
益 10      その他資本剰余金 430

タイムテーブルは取得時から書こう

S株が借方に2,430になるのが理解しにくい方が多いようです。

Tフォームにしてみました  
売却後の個別は下記になります

	S株	
個別 7,260		

S株は開始仕訳で9,680円相殺しています。このままでは貸方2,420円の残になります。この残を解消する為に借方2,430円とします。